

第15回 静岡県教育のつどい in 浜松市

語り合おう、地域と学校にできること みんなで支えあう豊かな育ちと学びのために



コロナ禍で子どもや若者たちは、「競争」「自己責任」「受益者負担」にいつそう苦しめられています。発達仕方が一人一人ちがう多様な子どもたちの豊かな育ちと学びを、みんなで見守り支えようとする「 commons 」(共有財)としての学校・地域の再生が、今あらためて求められています。

将来への希望である子ども・若者の、声にならない悩みや苦しみ、そして願いに耳を澄まし、保護者・市民・教師、そして子育てと教育にかかわる行政で、つどい、語り合い、何ができるのだろうか、ともに考えあいましょう。

日時 2022年11月27日(日) 9:30~16:00

会場 浜北文化センター

(〒434-0038 浜松市浜北区貴布祢 291-1 Tel 053-586-5151)

9:15~受付開始 9:30~9:40 開会全体会(大会議室)

9:40~11:45 記念講演<<静岡県教職員互助組合高校支部 教育講演会>>

記念講演 広木克行さん

「聴いてみませんか『子どもの心の声』 —学校と家庭に楽しさと安心が蘇るために—」 オンラインでも配信します

1945年、樺太生まれ、東京立大卒。東京大学大学院博士課程単位取得、教育行政学専攻。長崎総合科学大学教授、神戸大学教授を経て、大阪千代田短期大学学長、神戸大学名誉教授。不登校・登校拒否を考える親の会相談員。

著書 『子どもは「育ちなおし」の名人—見えますか、子どものシグナル』 『子どもは紫の露草』 『手をつなぐ子育て—思春期を見通して』 『親と子の絆を深め合う道程(みち)』 『保育に愛と科学を一親と保護者に贈る言葉』 『ありのままがいいんだよ』 『子どもが教えてくれたこと』など多数。



「教室に行くと息が詰まる」「学校が怖い」「先生が怖い」「友達がイヤ」…、不登校の子からよく聞かれる言葉です。文科省の調査によると、2020年度の不登校は千人あたり小学校で約10人、中学校では約40人、30年間で3倍に増えています。年間30日未満の不登校傾向の小中学生は文科省調査の3倍になるという調査報告もあります。増え続ける不登校の子どもたちは、学校や教育の現状に対して何を問いかけているのでしょうか。

自分でつくった授業案で「勉強がおもしろい」と感じてもらえる授業をするのも容易ではありませんが、モデル通りの授業案で「勉強がつまらない」と思われたとしたら…。騒がしい教室の様子と大声で注意している自分の姿に、敗北感と罪責感という二重の苦痛を味わわされていると、ある教師は語っていました。

超の付く多忙の中で教科書のやり残しを避けるために、通常では考えられないほど大量の宿題を子どもに出し、過度な競争に追い立て、「子どものため」と称して「子ども時代」を奪う「教育虐待」に陥り、教育が半ば崩壊していると言えるのではないのでしょうか…。

12:45～ 午後受付開始

13:00～16:00 共育分科会

	テーマ	語り合いたい内容
A	授業づくり、 学級・HRづくり	<p>小学校、特別支援学校、高校の実践報告をもとに、授業づくり、HRづくりの悩みや問題を共有しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none">・「歴史総合奮闘記～この科目でできること、できないこと～」当日は、歴史総合の授業を一部再現し、この新科目の可能性と限界性をみなさんと共有できればと思います。・「子どもたちの可能性は無限大 コロナ禍の子どもたちからおそわったこと」 <p>コロナ禍で休校が続く中、登校日に子どもたちは日記に取り組み、それを学級通信で共有しました。その後も日記に取り組み学級通信にすることで、子どもたちは、関りを深めていきました。</p>
B	子どもたちの豊かな食を支えるために	<p>福祉、教育、医療の次に無償にすべきなのは「食」かも。</p> <ul style="list-style-type: none">・ふじのくに学校給食を考える会は、自校給食や地産地消を実現してきました。食育にも積極的に関わっています。・浜松市でも地産地消の学校給食を模索したり、子ども食堂などのとりくみを始めています。・統廃合、夜間定時制、新構想高校を地域の視点で問い直し、学校の存在意義をあらためて考えましょう。
C	子ども主体の豊かな学びを支えるために	<p>自己責任・競争を超えて、何のために学ぶのかの原点に戻り、多様な発達を支えあう社会をつくるための学びのあり方を考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none">・知と文化の宝庫「学校図書館」は学びの入り口、生活や体験を統合する「学校の中心」。学校と地域をつなぐ学校図書館のとりくみから、あらためて学びのあり方を考えましょう。・蚕を飼って、観察し、発見を伝えあい、語り合い、豊かな学びの交流が生まれ、それを作文で表現しました。・教育のデジタル化にも、問題点、課題はたくさん。・平和を学び、伝えようとする、子どもたちの学びや活動を支援しようとする高校生・大学生・若者たちのとりくみ（エバークリーン、藤枝市平和展、YEC、SSS 他）から、学ぶことの意味を考えあいましょう。
D	生きづらさを抱えた子どもたち若者たちを支えるために	<p>一人一人の事情を周囲が理解し、困っていることをていねいに分析しあうことで、途切れない発達を保障できるはず。そんな実践を切り口に、誰もが居心地よく生きやすい社会を模索しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none">・幼保小中で、子どもに関する情報を共有し、行動の現れをどう見るか事例を考察しあい、対応策を協議、協力して子どもを支えようとするとりくみからたくさん学べそう。・フリースクールや放課後児童会など、地域で切れ目なく子どもの発達・成長を支えるとりくみからもたくさんのヒントを得ることができそうです。

主催 静岡県教育のつどい実行委員会・静岡県教育研究会

静岡県教育会館・静岡県教育事業団体連絡会

後援 浜松市・浜松市教育委員会

こんにちは！ふじのくに学校給食を考える会です。

給食がおいしい
富士市はココ！



「食育」は生きる力を育てること。

私達は、全ての子ども達が食べる給食の時間こそが、食育の最良の機会ととらえています。

調理員さんたちが校舎の中で作る給食の香りが四時間目ごろから漂う中で、子どもたちが五感を使って給食を楽しみにしたり。

質・鮮度のよい、地元のものを使ったおいしい給食が、子ども達の味覚を育て、出前授業などで地元の生産者と子どもが触れ合う機会を増やし、地元のものファンを増やしていったり。

そうやって生産者さん、学校、子ども達がお互いの顔の見える「三方よし」のwin-winの関係を作っていくことが、これからの時代の食を守っていくひとつの方法でもあると信じて、活動を展開しています。

うんとよく見て、うんと考えて—カイコを中心としたさまざまな小動物の飼育活動を通して—

2年生の子たちが、カイコと出会い、触れなかった子も触れるようになってどんどんカイコが好きになり、休み時間のたびに遊んでいました。観察して気付いたことや不思議に思ったことを仲間に伝えたり話し合ったり、豊かな学びの交流が生まれ、その様子を作文に書き綴りました。その表現の豊かさと確かさ。そこには、子ども主体の、バーチャルではないリアルな体験的な学びがありました。



のんびり、ゆったり、自分のペースで共に育つ場

NPO法人ドリーム・フィールド

優しい心で、共に育つことができる体験的学びの場です。

1. フリースクール「ドリーム・フィールド」(放課後等デイサービス・日中一時支援)
小学生から高校生まで、延べ約40から50名が在籍する、不登校生、発達障害や精神疾患をもった子どもたちのための育ちの場です。
 - 小中学校や通信制高校の勉強のサポート
 - 自由に主体的に好きなこと、やりたいことを選んで学ぶ(英語、理科、アート、アニメ、ドラム、ベース、ピアノ、ボーカル、ドラムレッスン、ギター、卓球、サッカー、野球、テニス、プール、カラオケ、スケートボード、ボードゲーム、カードゲーム、映画、工作、デジタルイラスト、ティンペア、読書、料理、プログラミング、ピリヤード、トランプ、ゲームなど)。
2. 「雑貨カフェいもねこ」(就労継続支援A型 2011年開設)
社会を体験する就労継続支援事業所であり、働く場でもあるカフェ。猫ちゃんグッズ、いもねこクッキーの販売と、ドリップコーヒー、いもねこスイーツ、シェラランチャが楽しめる、ゆったりとした癒しのカフェです。
3. 「工房いもねこ」(就労継続支援B型 2013年開設)
いもねこクッキーやスイーツの製造など、地道な作業が合っている子たちのための就労継続支援事業所です。
4. 「いもねこショップ」(2014年開設)
猫ちゃんグッズ、いもねこクッキー、駄菓子の販売と、水出しコーヒー、いもねこスイーツ、軽食が楽しめます。(コロナ禍のため現在はテイクアウト)
5. 「ちびねこ」(2021年開設)
猫ちゃん絵本、いもねこクッキー、オリジナルグッズの販売、クレープや暹州焼きも提供しています。(コロナ禍のため現在はテイクアウト)

エバグリーン藤枝

平和を学び、考え、発信し、
身近なところから平和をつくる

2022年 エバグリーン藤枝第18回企画
満蒙開拓とは何だったのか—記録なき歴史から学ぶ

あやまちをくいかえさないために、
わたしには何が出来るのだろう

佐野陽子さん「開拓という名の侵略」



佐野陽子(さのようこ)

1945年4月、当時8歳の陽子さん一家は京都から「平安郡開拓団」として満洲に向かいました。野芝(じょらくちん 現・黒竜江省)には広大な土地が広がり、馬鈴薯や大豆などを植え付けます。しかし8月にはソ連軍が参戦、父はシベリアに抑留。逃げる途中でソ連軍の攻撃を受け、母を失い、次いで妹の慧子さんも命を落としました。陽子さんは、中国人の家庭の養女となり、飢寒され、自死も考えますが決死の覚悟。中国人民解放軍で看護婦として勤務し、58年6月、ようやく帰国。「当時は一徳政府の言う通りの人間だった。次世代の人たちは、物事を自らの目で見て、自分で考えて行動する人になってほしい」と語ります。

藤枝市平和展で
藤枝北高校演劇部が「ばらの祈り」を朗読

2022年藤枝市平和展 青春の鼓動 ~平和だからこそ~
8月6日(土) 12:30~16:30 藤枝市生涯学習センター

正しいより 楽しい・面白い
やりたかったこと やってみよう



豊けこの声、遠くまで
大切なすべてに届け

宝島へ
きみを連れて行くよ



私には、
何が出来るのだろう

絵 曾根梨衣部(榛原高校 美術部)



浜北文化センターへのアクセス

〒434-0038 浜松市浜北区貴布祢 291-1
 TEL 053-586-5151
 FAX 053-586-5153

- ・遠州鉄道浜北駅から徒歩 5 分
- ・東名高速道路 浜松・浜松西 IC から約 20 分
- ・新東名浜北 IC から約 15 分
- ・JR 浜松駅からタクシーで約 30 分



【申し込み・問い合わせ先】

■ 第14回静岡県教育のつどい実行委員会事務局
 全教静岡 静岡市葵区末広町1-4 Tel 054-253-3331 Fax 054-270-7802
 zenkyoshizuoka@dream.ocn.ne.jp

静岡高教組 静岡市葵区駿府町1-12 Tel 054-254-6900 Fax 054-254-0814
 info@s-koukyouso.jp

コロナウイルス感染防止のため、下記についてご協力をお願いします。

- 1、発熱・咳などの症状があるなど、体調不良の方はご遠慮ください。
- 2、事前に自宅での検温をお願いします。
- 3、手指の消毒とマスクの着用をお願いします。

■ 参加申し込みは、11月18日（金）までに、FAXまたはメールをお願いします。

参加申込書

参加費無料

どなたでも参加できます。
お早めに申し込みをお願いします。

所属	ご氏名	連絡方法	電話
			メールアドレス

参加希望に○を記入してください。希望する分科会・オンライン参加希望にも○をお願いします。

11月27日（日） 9：30～全体会・記念講演 広木克行さん	
(オンライン参加)	オンライン参加
13：00～共育分科会	A B C D

分科会・記念講演へのオンライン参加希望は、下記にメールでの申し込みをお願いします。

静岡高教組 info@s-koukyouso.jp